



森ノ宮医療大学

● 「看護学科開設記念」特別講演会

～日本のナイチンゲール、薄井坦子先生の講演に200名参加～

森ノ宮医療大学看護学科
小児看護学 助手 佐藤 寿哲 としあき

平成23年6月2日、森ノ宮医療大学キャンパスにおいて、看護学科の開設記念講演会が開催され、200名を超える参加者のもと盛況に終えることができました。テーマは「看護の本質とこれからの看護」、講師は薄井坦子先生でした。

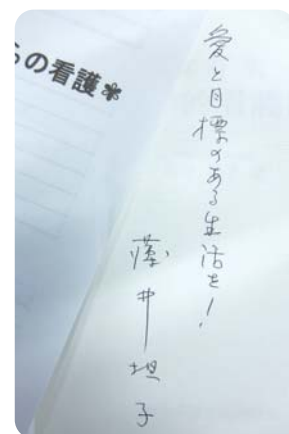
薄井先生については、おそらく看護の関係者以外の方はご存じない方がほとんどではないでしょうか。しかし看護師である私は、20年以上前の学生時代にF.ナイチンゲール『看護覚え書』を読み、次に薄井先生の『科学的看護論』を学んでいましたので、少し大袈裟かもしれませんが、当時の私には日本におけるナイチンゲール的存在でもありました。学生時代には、薄井理論の考えに基づき、毎日たくさんの実習記録を描いていたことを今も思い出します（「描いて」というのは図を用いた記録のためです）。

講演の中では、薄井先生が自分の仕事に3つの関心を持つ必要性について語ってくださいました。その中の1つの、客観的に学んだ知識を使って判断する「理性的な関心」を持つためには、「わが身の中にその人の状態を作り出すことが必要で

ある。それが“看護の力”の1つである。現代の看護は医学に導かれている面がある。」という内容のお話は普遍的な中に先見性を感じる薄井先生らしいものでした。また本学の教育目標でもある伝統医学と現代医学の融和と相互補完による「統合医学」への期待も語っていただき、非常に心強く感じました。

余談ですが、当日私は学生時のテキスト、薄井著『科学的看護論 改訂版』を持参し、開学記念パーティの時にサインをいただきました。中年男のミーハーぶり？に、閉口されることなく「愛と目標のある生活を!」という言葉も添えていただきました。

最後にこのような講演会を、企画・運営していただいた皆さま方に感謝いたします。また新たな校友会メンバーとして看護学科をよろしくお願い申し上げます。



薄井先生にいただいたサイン



前列中央薄井先生。前列右側筆者（佐藤）。

2011年(平成23年)6月7日 火曜日 大阪日日新聞



平成23年6月7日
大阪日日新聞より

そして「看護の本質は、対象と看護者の関わりの中にある」とし、看護に必要なのは「知識」「技術」「愛」と指摘した。さらに今年入学した学生に、「物理学者のアインシュタインの言葉に『看護は18歳までに身に付くべきスキルではなく、心から湧き出るものがある。機転は後から学べる。』という言葉を心に刻んでほしい」と語り、看護の魅力を語りかけた。 (天山雄男)